

I 米 国

1. 一般経済の概況

米国経済は、国内総生産（GDP）の約7割を占める好調な個人消費や、景気の変動を受けにくい情報関連産業での活発な設備投資などを背景として、91年以降安定成長を持続し、99年の実質GDP成長率は4.2%となった。

インフレ率は、長期にわたる景気拡大から労働需給がひっ迫の度合いを高めつつあるものの、金融当局による適切な経済運営や生産性の向上などを背景に引き続き安定的に推移し、99年の消費者物価指数は前年比2.2%増、また、生産者物価指数は1.8%増となった。

99年の貿易収支は、貿易赤字（国際収支ベース）が前年より40.0%、金額にして987億ドル増加し、3,456億ドルとなった。

表 1 主要経済指標

区分／年	1995	1996	1997	1998	1999
実質GDP成長率(%)	2.7	3.6	4.4	4.4	4.2
消費者物価指数 (1982=84=100)	152.4	156.9	160.5	163.0	166.6
生産者物価指数 (1982=100)	127.9	131.3	131.8	130.7	133.0
失業率(%)	5.6	5.4	4.9	4.5	4.2
貿易収支(10億ドル)	▲174.5	▲191.3	▲196.7	▲246.9	▲345.6

資料：US Dept. of Commerce 「Gross domestic product, percent change from preceding period」ほか

2. 農・畜産業の概況

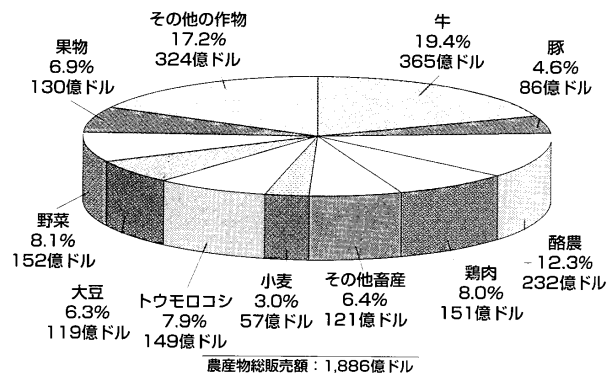
米国経済における農業の位置付けは、他産業の発展に伴い時代の経過とともに低下し、99年においては、GDPのうち農業生産（農産物販売額：現金収入の暫定値）の占める割合は2.0%にすぎないものとなっている。しかし、世界の農業生産および農産物貿易における米国農業の地位は、ますますその重要性を増している。

99年の農業経営体数（農産物の年間販売額1千ドル以上）は219万4千戸であった。また、1経営体当たりの農用地面積は、432エーカー（173ヘクタール）であり、農用地面積全体とし

ては9億4,734万エーカー（3億7,894万ヘクタール）であった。なお、年間10万ドル以上の農産物販売実績のある経営体は全体の15.9%で、全農用地面積の55.5%を占めている。

99年の農産物販売額（現金収入の暫定値）は、1,886億ドルと前年を4.1%下回った。その内訳を見ると、作物部門は931億ドルと、穀物価格の値下がりから前年を9.1%下回った。一方、畜産部門は堅調な肉牛価格を反映して、前年を1.4%上回る955億ドルとなり、農産物全体に占めるシェアは50.6%へと拡大した。

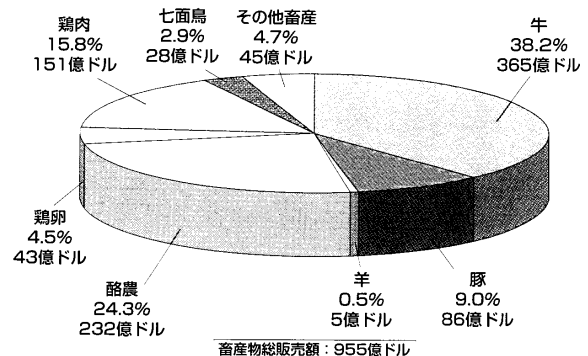
図 1 農産物販売額（1999年度）



資料：USDA 「United States and State Farm Income Data」

各部門別の販売額を見ると、肉用牛が365億ドル（全体に占めるシェアは19.4%）と第1位であり、次いで酪農が232億ドル（同12.3%）となっている。6割が家畜飼料となるトウモロコシの販売額が149億ドル（同7.9%）であることから、畜産物の重要性がうかがえる。

図 2 畜産物販売額（1999年度）



資料：USDA 「United States and State Farm Income Data」